



こだち News

巻頭言

目次

WISC・WAIS研修会
ご報告 2

回想ドラマ法入門
研修会 ご報告 3

こだちゼミナール
ご案内 3

掲示板 4

平成29年度の事務局

事務局の体制は以下の通りです。

理事長：

黒木俊秀

顧問：

田嶋誠一

野島一彦

専務理事：

金子周平

心理臨床部長：

山口雄介

事務局員：

諫山千絵

金子光代

香野有咲

阪木淳子

高橋大樹

牧山翔子

柳 裕哉

準事務局員：

饒田紗世

(五十音順)



専務理事着任のご挨拶

特定非営利活動法人 九州大学こころとそだちの相談室
専務理事
金子 周平

こだちの設立以来、10年間専務理事を務めてくださいました増田健太郎先生の後を継ぎ、平成29年4月から着任いたしました。理事として残ってくださる増田先生に、まだまだ不慣れな私の理解不足を補っていただきながら、黒木理事長、山口心理臨床部長、事務局や相談員の皆様と共に運営面を支えていきたいと思っております。

ご存知のように、こだちにはカウンセリングルーム、ここりーと、家庭学習支援、そして地域に貢献する各種のこころの健康推進活動、研修会などの専門職の支援活動など多くの事業があります。これまで関係の皆様が創り上げてきた事業です。いずれも利用者のこころを大切に育む活動になっています。しかし、こうした私たちの実践が、そのまま地域のニーズと結びついていくとは限らないところが難しいところです。こだちの活動と、これからも時々刻々と変化していく社会状況とをつなぐ柔軟な連結部分が必要なのだと思います。こだちの事業と会員の皆様、そして地域の皆様とをつなぐために、運営面のスタッフは日々ニーズの調査や広報、そして各方面との連絡調整などを行なっています。専務理事としての私の仕事は、こうした連結部分を固定化せず、柔軟なものとして保つことだと思い、日々運営に取り組んでおります。

さて、時々刻々と変わっていく社会といいますと、こだちが特に関係するところで大きな変化が起こっております。一つはご存知の通り、公認心理師法の施行がその成立からちょうど2年後の今年9月15日に行われたことです。こだちは、公認心理師やその職域、職務内容との関係を考えていくことになるでしょう。こだちに対して新たに期待される声にも十分に耳を傾け、それに応じていく必要も出てくることでしょう。もう一つの大きな変化としては、平成30年の夏の九州大学文系地区移転があります。九州大学の総合臨床心理センターとこだちは別組織でありながら、これまでは福岡市の東と西から、地域のこころとそだちを見守ってきました。これからは九州大学との関係においても、こだちは互いの地理関係と対応する範囲の変化について考えていかなければなりません。こだちにとっても、これからの数年は変化の時だと言えるでしょう。

これからも引き続き、こだちが地域における社会的役割を果たしていくために、会員の皆様からのご支援とご協力をいただきながら、専務理事とカウンセリングルームの室長を勤めてまいりますので、何卒、ご支援のほどよろしくお願いいたします。お気付きのことがございましたら、どのようなことでもお知らせください。

WISC・WAIS研修会 ご報告

今年度、こだちで新たに発足した研修会のひとつが、このWISC・WAIS研修会です。教育領域・医療領域・福祉領域・司法領域のいずれにおいても活用場面が多いウェクスラー式検査ですが、単にIQの数字を測定して事務的・機械的に対処を振り分けるだけのツールになってしまっている状況が散見されます。検査を取るほうは、できるだけ速やかに何事もなく実施さえできれば、また検査を受けるほうは、こんな苦痛な時間が早く終わってしまえば…そんな双方にとって「避けられるものなら避けたい」場面になってしまっている心理検査。本当は、決してそんなツールではないはず。検査を受ける人にとっては、分かって嬉しい・分かってもらって嬉しいという体験に、検査をとる人には、対象者との豊かな二者関係を展開し、今後の支援のヴィジョンが見えてくる、そんな臨床場面であってほしい。そんな願いから、ウェクスラー式検査の研修会を昨年から企画し、検査と子どもの心理療法についての研究・実践・教育に熱心に取り組んでおられます、木谷秀勝先生（山口大学大学院教授）をお招きすることが叶いました。



8月11日（金・祝）というお盆休みの初日にあたる日程でありながら、参加募集を始めるや否や、あっという間に定員の30人を超える申し込みがあり、急遽50名まで増員しての研修会となりました。当日は会場いっ

ぱいに受講者の意欲的な気色が満ちていました。

木谷先生の軽妙なお話で、最初から会場全体がその世界にぐっと引き込まれていくのが感じられました。多種多様な事例を交えて99枚にもおよぶスライドと共に、その子どもの生き方がありありと浮かび上がってくるようなお話、そしてその生き活きとした生活を知る相互のやり取りとしての心理検査の位置づけが、受講者には非常に鮮烈なものとして映りました。検査の中で、子どもたちはこんなにも日頃の大変さ、そして持ち味を表現している…そして、それを聞きたい・見せてほしいという期待を込めて、一緒に課題に向かい合います。生活を読み取り、生活に活かす。この過程は言語や遊戯での心理面接と何ら変わらない姿勢なのです。一見、ウェクスラー式検査で示されるIQの数字は不動の審判であるかのように思われがちですが、そのとき・その場面・その相手との体験においてあらわれた、ある種の“生もの”です。

後半には事例検討の時間を設け、受講者3名が背景様々な事例について発表していただきました。子どもの心身の両面の発達の視点と、学校での教育内容や段階、文化的な文脈、それを踏まえた日常の体験を読み取り、子ども自身言葉ではうまく表せない、あるいは自分でもよくわからない苦しさをくみ取る、とても高度な検討の時間となりました。

受講者の方々には非常に密度の濃い体験となり、大変好評となりました。キャリアの長い方から学生まで、経験も経歴もそれぞれでしたが、それぞれにとって新鮮な発見の時間となったようです。今後の現場での活用につながる、有意義な学びとなりました。

当法人設立十一周年記念

「森岡 正芳 先生 公開スーパービジョン」

日時 2018年1月28日（日）14:00～16:30
会場 九州大学西新プラザ 大会議室（福岡市早良区西新2-16-23）
講師 森岡 正芳 先生（立命館大学総合心理学部 教授）
対象 臨床心理士（受験資格者を含む）、医師、コメディカルスタッフ、臨床心理学を学ぶ大学院生
定員 200名
参加費 3,000円



詳しくは、案内のチラシまたはこだちのホームページをご覧ください。

回想ドラマ法入門研修会 ご報告

9月23日(土)、九州大学総合臨床心理センターにて当法人主催の研修会「こだち回想ドラマ法入門」が開催されました。講師には九州大学准教授の古賀聡先生をお招きいたしました。本研修会には臨床心理士だけでなく、看護師や作業療法士などをはじめ、高齢者の健康支援に従事する様々な職種の皆さまにもご参加いただきました。

本研修会では、講師の古賀先生より、回想法や心理劇に関する基礎的な知識、技法の説明などのご講義をいただきながら、スタッフによる具体的な技法のモデリング、参加者も含めたペアワーク、グループワークなどを行うことで、体験を通して回想ドラマについての学びを深めました。また古賀先生がこれまでの臨床の場で実際に経験された事例をご紹介いただき、心理劇の経験がない参加者の方にも非常に分かりやすい研修会となりました。

古賀先生からは、クライアントの行為表現・自発性をどう引き出すか、身体動作を介した心理的援助、クライアントの人生における苦勞、誇り、成し遂げてきたものへの共感、など心理劇やグループセラピーだけでなく、1対1の心理面接や日常の場でも活用できる心得や、高齢者と関わる際に活かせる技などをたくさんご教授いただきました。

今回は、全21名の参加者のうち、およそ半数が心理劇未経験でしたが、参加者の皆さまからは「実践もあり、分かりやすくイメージしやすかった」「緊張して臨んだが、和やかな雰囲気とても学びが深かった」「職場でのグループでの具体的な新しいアイデアが浮かんだ」などの感想をいただくことができました。実際のグループワークを通して参加者の皆さまにも笑顔が多く見られ、とても温かい雰囲気の研修会となりました。



市民向け臨床心理学講座 こだちゼミナール ご案内

心理学で地域とつながる

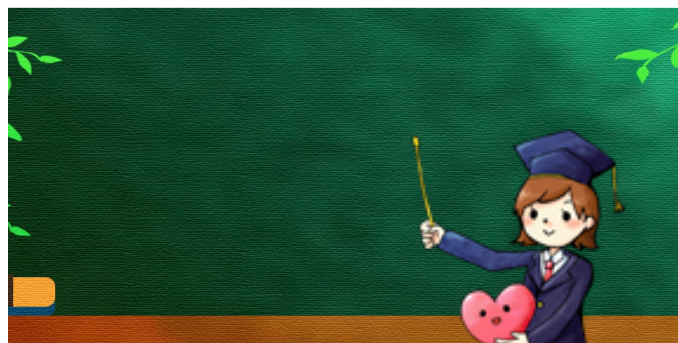
こだちでは、2009年より一般市民向けの臨床心理学講座を開講しています。この『九大こだちゼミナール(通称:こだゼミ)』は全8回の講義を通して、様々な分野の心理学を紹介し、不登校、うつ病といった身近な心の問題などもテーマに扱っています。各専門分野で活躍する九州大学の教授陣が、分かりやすい講義や実践的なワークを交えて行っています。

毎年およそ20代の方から60代の方まで、老若男女問わず、20名前後の方が参加されています。

先日、2017年度第4回のこだゼミが終了しました。和やかな雰囲気の中、松下先生の優しい口調の講義と描画のワークを通して、自分の気持ちと向き合ったり、他者理解を深めたりする時間になっていました。

以下は、これまでに終了した回の参加者の声です。

- 第1回:自己理解と人間関係 / 増田 健太郎 先生**
『エゴグラムを体験し、自己分析の助けになった』『とても楽しくてあっという間の2時間だった』
- 第2回:発達障害の理解と支援 / 田中 真理 先生**
『災害時の発達障害をもっている子への対応がわかった』『事例が多く非常に分かりやすかった』
- 第3回:日常の関係に活かす「観察」と「質問」の方法 / 金子 周平 先生**
『今まで想像でものを言うことが多かった。今後は観察して言葉を選んでコミュニケーションをとりたい』



掲 示 板

こだちよりお知らせ

物語としての面接【新装版】

ミメシスと自己の変容

森岡正芳(著)
新曜社

2018年1月に公開スーパーヴィジョンの講師としてお招きする、森岡正芳先生(立命館大学総合心理学部教授)のご著書です。2002年の初版のものから装いを新たに、2017年に新装版として出版されました。森岡先生の博士論文が基になっています。

「ミメシス」は、ギリシャ語で「模倣、再現」などを意味する言葉です。クライアントは自らの体験をなぞりながら面接室で言葉によって「ミメシス」し、セラピストはその語りをくみ取り、自らの中で「ミメシス」する——この両者の体験によって織りなされる心理療法の展開についての考察が、ロジャースのみならずフロイトをはじめとした精神分析の知見、そして土井健郎・神田橋條治といった日本の精神療法の趨勢も盛り込みながら詳述されています。心理療法に臨む姿勢を問う1冊です。



【こだち主催研修会のご案内】

こだち精神医学講座2017

～発達障害と愛着障害の臨床～

日 時 2018年3月4日(日) 10時～17時

講 師 三木浩司先生(小倉記念病院)

会 場 九州大学西新プラザ 中会議室
(福岡市早良区西新2-16-23)

対 象 臨床心理士、または現場の心理職の方、医師、教師、その他対人援助専門職の方、これらの領域を学ぶ学生

定 員 30名(定員になり次第締め切ります)

参加費 会員:8,000円 非会員:10,000円

お申込み・詳細はご案内のチラシやホームページをご覧ください。



当法人からみなさまへ 入会のお願い

当法人では、地域に貢献できる臨床心理事業、および臨床心理士の質の向上のための研修事業に取り組んで参りました。みなさまのご支援のおかげをもちまして、これまでの11年で着実に実績を重ねてきました。わたしたち一同、これからに向かって、一層充実した活動をしていく所存です。

しかし、設立当初からの財政難は年を追うごとに厳しさを増し、質の高い臨床心理事業・研修事業を今後維持することができるかどうか、瀬戸際に立たされています。心理援助の理念に従い、営利を目的としないサービスを提供しておりますので、収入は芳しいものではありません。

当法人の運営資金の根幹は、みなさまからの会費収入で賄われております。会員が増えれば、それだけ充実した事業によって地域のみなさまや臨床心理士の方々に貢献することができます。

このお願いをお読みの方の中には、過去に会員であった方や、ご職場などで回覧されている方もいらっしゃるかと思います。ぜひ、当法人会員となってくださいませよう、よろしくお願い申し上げます。

理事長 黒木俊秀

正会員(一口5,000円) 臨床心理士有資格者

学生会員(一口1,000円) 学部生・大学院修士課程

準会員(一口5,000円) 臨床心理士資格試験受験資格保有者

賛助会員(個人:一口5,000、団体:一口10,000円)

編集後記

秋来ぬと 目にはさやかに見えねども 風の音にぞ 驚かれぬる (古今和歌集・藤原敏行) 暑さの極限と寒さの極限の間の季節。“つなぎ”のうつろいは捉えどころがないけれど、はた、捉えたきもがな。(柳)



特定非営利活動法人 九州大学こころとそだちの相談室

〒814-0002

福岡市早良区西新2-16-23 九州大学西新プラザ内 産学交流棟



TEL 092-832-1345

FAX 092-832-1346

HP <http://kodachi.or.jp/>